

【今年も感動を】

11月27日に行ったマラソン大会では、子どもたちが歯をくいしばってゴール目指し走り続ける姿に感動しました。保護者の皆さんの応援の聲が子どもたちの背中を押してくれたことと思います。4週間にわたって続いた練習では、子どもたちは比較的早い段階で、各自のペースをつかみ、目標を少しずつ高くしていくことができたようです。大会は2学年ずつのレースであるため、赤い帽子(上の学年)の子どもたちがレースをリードしていましたが、特に3,4年生のレースでは、その傾向が顕著に見られました。4年生になると、毎日の登下校が徒歩になるために、基礎体力がしっかりと身につけていることも分かります。

当日は、9時前からこどもの国の前には大勢の子どもたちが保護者の皆さんとともに集まっていました。開場を待つ子どもたちの声が準備をしていた私たちにも聞こえてきました。正面の門が開き、入り口のゲート付近に子どもたちが集まってきたのは9時10分ごろでしょうか。早く入場したい子どもたちの気持ちがだんだんと大きな声となって聞こえてきました。そんなとき、突然「早く開ける」という声が聞こえ、たいへん驚きました。保護者の皆さんが近くにいたわけですから、その声は当然保護者の皆さんにも聞こえていたはずですが、こどもの国の関係者の方々もさぞ驚かれたことでしょう。「待つ」「我慢する」ということが必要なことがあるということをきちんと教えていかなければならないと思った場面でした。

【新聞記事から・・・「暴力行為」】

12月1日の新聞の『県内小中高の暴力行為---4年連続で全国最多』という見出しに目を奪われました。これは2008年度の統計をもとにしたことですが、神奈川県内だけでなく、全国的に増加しているとのことでした。件数としては小学校が6484件(前年比1270件増:全国での件数)で、全体の傾向としては、生徒間暴力が4091件(前年比592件増)、器物損壊3456件(同701件増)、対教師暴力1147件(同232件増)などとなっているとのことでした。

たまたま、その記事を読む前に、学校で友だちと喧嘩をする子、ささいなことでまわりの子を叩いたり、蹴ったりする子が日常どのような生活をしているのか、学習への取り組みの様子はどうかを考えていたところでした。そのときに、安易に暴力をふるう子の傾向として、自分の気持ちがうまく表現できない子、表現するための言葉や方法を身につけていない子にそういう子が多いようだと思っていました。

新聞の記事を読み進めて行くと、「自分の思いをうまく言語化できず、感情をコントロールする力も乏しい。1980年代に問題になった校内暴力では集団によるものが多かったが、今は特定の児童生徒が繰り返す傾向が強い」とありました。ここにある「言語化できない」「特定の児童が繰り返す」というのはまさに私を感じていることと同じであり、学校の指導力を問われると考えています。

なお、その記事の後半には、児童生徒が暴力を振るうようになる理由の一つとして、児童生徒自身が家庭で暴力を受けているケースを指摘しており、日常的に暴力にさらされている子どもは加害者にもなりやすいとも書かれていました。

子ども自身が様々な力をつけていくこと、子どもを理解する努力を私たちがすること、子どもが安心して生活できる環境を作ること、これらがバランスよく行われることで子どもの成長を促すことができると考えます。

【子どもの学校での様子】

子どもたちが学校でどんな遊びをしているか。楽しいと感じていることは何か。今夢中になっていることは何か。やってみたいと思うけれどなかなか一歩を踏み出せないでいることがあるか。ときに悲しくなることがあるか。困っていることはないか・・・。

最近先生方からの報告の中に、「子どもが学校でのことを話したがらないので学校での様子が分からない」と言う保護者がいるというものがありました。学校でのことをいろいろと話してくれてそれを聞くのを楽しみにしているという保護者もたくさんいます。高学年になると学校のことを話さなくなると言う人もいますが、それは必ずしも当たっていないと思います。

子どもたちは、自分の話をちゃんと聞いてくれる人を必要としています。もしかしたら叱られるかもしれないと思うことも、実は隠しておくのはとても嫌なことなのではないでしょうか。そういうことほど本当は話したいのではないのでしょうか。

大切なのは聞く側の気持ちの持ち方。子どもが誤魔化したり、うそをついたりする必要がないと思えるような聞き上手になりたいものです。

【お知らせ】

現在4年1組の担任をしております花野井舞が来年1月末から産休そして引き続き育児休業となります。4年生は、次の学年になる際に、クラス替えもあり新しい教員との生活が始まることとなりますが、それまでの間、私(斎藤)と本田の2名で4年1組を担当することとしますので、どうぞよろしくお願いいたします。